

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401632		
法人名	有限会社こすもす		
事業所名	グループホームこすもす		
所在地	〒859-2112 長崎県南島原市布津町乙369番地1		
自己評価作成日	令和3年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然が広がり静かな環境の中で、家庭的な雰囲気を大切にしているホームです。ご家族の金銭的負担を軽減する為に光熱費、オムツ代等はホームで負担し低料金でサービス提供を行っています。介護においても入居者の立場に立ち、個々に添った支援に努め、理念である「みんなで一緒に楽しく」日々生活が送れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは普賢岳の麓、有明海を一望できる田畑に囲まれた長閑な場所にあり、入居者が静かな環境で穏やかに暮らしている。理念である「住み慣れた地域の中でその人らしく 自分でできることは自分で行い 安心して穏やかに みんなで一緒に楽しく生活が送れる」を念頭に職員が共有を図り、入居者個々の希望に沿った支援に取り組んでいる。花が好きな入居者の為にバラを植えて入居者が水やりをしたり、入居者がおやつのおもちゃを手作りするなど、活動支援が充実している。また、季節に応じた壁画やぬり絵を入居者が制作し、玄関や廊下の壁に掲示しており、季節を感じることができるよう工夫し支援している。現在は新型コロナウイルス感染症予防のために地域の和太鼓や老人会からの訪問は行われていないが、ホームの庭に出て地域のひとと挨拶を交わすなど、可能な限り地域との交流を継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい人生の継続の支援に「みんなで一緒に楽しく」の理念のもと、入居者が安心して穏やかな生活が送れるように日頃の関わり方や日課等については家族と相談しながら一人一人に合った介護に努めている。	理念をいつでも職員が確認できるよう、ホームの玄関や事務室に掲示している。毎月1回開催する職員会議で、みんなで一緒に楽しく、笑顔で暮らせるように入居者一人ひとりに応じた支援を検討し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで地域の方と挨拶を交わしたり話をしたりしているまた近隣の畑で採れた農作物の差し入れもある。	近くに暮らす子供たちが、ホームの駐車場でなわとびや自転車に乗り楽しんでいる姿を眺めたり、通りがかる地域の人と会話を楽しんだり、入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ感染防止にて協力医療機関と相談し外部の出入りを禁止しており、実習生の受け入れには至っていないがコロナが収束したら今後検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議で毎回違う家族の参加があり事業所の活動内容や利用者の状態について報告したり質問や意見・要望などを受け入れサービスの質の向上に取り組んでいるが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として三密を避ける為、会議の開催を中止し参加者及び利用者の家族へは書面にて説明している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。現在は新型コロナウイルス感染症予防対策として書面を郵送し、日頃の取り組みを紹介している。参加者及び家族からの意見を受けて、ホームのサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営やサービス提供を行っていく上で生じた課題は事業所だけで抱え込まず、市町村の担当者へ相談したりと協力関係は築けている。	市町村の介護保険担当者へ2か月に1回開催する運営推進会議の資料を手渡しに出向いている。その際に、ホームの実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。また、日頃より市町村役場の職員と電話などで日頃のケアについて話し合うなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を決め利用者が安全で自由な暮らしが出来るように職員の見守りの方法を徹底しさりげないケアが出来るように取り組んでいる。	ホーム全体で身体拘束ゼロを目指し、運営推進会議に合わせて身体拘束適正化委員会を開催し、報告している。ホーム内研修を開催し、入居者が自由に生きいきと暮らせるための支援に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会や、身体拘束に関する研修会の内容については、回覧するなどの方法で周知しているが、職員への浸透にはばらつきが窺える。身体拘束に関する研修後、どのようにホーム内で取り組むのかを明確にし、伝え、職員一人ひとりの理解を深めるなど更なる取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在利用者の家族、職員に関して利用者への虐待行為は見られない。研修等にも参加し全職員で周知知識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対応が必要と思われる利用者はいないが研修等で職員に説明を行いながら理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定に伴い利用料が増加する場合や諸物価の変動により利用料の値上げを行う場合は十分な説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から面会を禁止しているが、窓越しでの面会や電話での対応等で精神面でもサポートができ、ホームでのご様子等を伝え、ご要望や本人の希望が言いやすいように心がけており出された意見や要望は職員で話し合い、反映させている。	玄関に意見箱を設置したり、面会や支払いに訪れた家族から意見や要望を直接聞き取っている。また、職員は日々入居者と共に過ごす中で発せられた希望や要望を受け入れ、その意見をより良い運営に活かせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の中で職員の意見や資格取得等の要望を聞くようにしている。また、必要時には勉強会や個別面談などを行いコミュニケーションを図れるように心がけ働きやすい環境になるように努めている。	職員は日頃より休日や有給休暇、資格取得などについて管理者に相談したり、運営に関する意見や提案を伝えており、管理者も快く聞き入れている。管理者は必要に応じて職員と個別面談を行いコミュニケーションを図る等良好な関係を築けるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長も頻繁に現場に出ており、利用者と一緒に過ごしたり、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して全ての職員が段階に応じて研修を受けることが出来るように配慮し毎月の会議の中で研修内容を発表し、全職員が共有出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所などと交流を持ち地域の情報や研修会などで意見や経験を聞き協働しながらサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況や本人が置かれている状況などを把握し、本人の思いや不安を受け止め信頼関係が持てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や不安、今までのサービス利用状況などについてゆっくり話を聞き家族の状況や要望などを把握し信頼関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対して早急な対応が必要な方には可能な限り対応できるように努め場合によってはケアマネや他の事業所のサービスに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者との関わり合いを大切にしながらの暮らしの智恵や要領などを教えてもらいながら残存機能が維持・向上できるように支援しお互いが協働しながら生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの電話や来訪時、日々の暮らしの出来事や気づきの情報交換を行い利用者の思いや職員の思いを伝えることで協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、協力医療機関と相談し家族との面会も禁止しており訪ねて来られる事はないが、電話や差し入れ等の継続的な交流が出来るように支援している。	現在は協力医の助言により家族との面会は禁止している。入居者には家族や友人からの電話や手紙、広報誌「しまばら」を手渡して地域の情報を伝えるなど、入居者が馴染みの人や地域との関係を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し楽しく過ごす事が出来るようにお茶や食事の時間は職員も一緒に会話に入りソーシャルディスタンスを心がけながら利用者同士の関係が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても家族が他の入居者様をご紹介して下さったり、農作物の差し入れやその後のご家族の状況などを報告に来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や行動、表情などに注意し、言葉での意思疎通が困難な方へは家族からの情報や身振り、行動をもとに本人の思いを汲み取り支援に努めている。	入居者の言葉や表情、行動、身振りなどから入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し、その人らしく暮らし続けられるように支援している。入居者本人が意思疎通が困難な場合には、家族などへその方に沿った意向があるかを聞き、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等にこれまでの生活歴やライフスタイルどのようなサービスを受けられて来たか等を聞き把握している。また、利用後も過去の情報を聞いたりし本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握できる事を発見し発揮できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で職員同士、入居者に対して気づいたことなど職員会議の中で意見を出し合いその人らしく生活が継続出来るように介護計画を作成しています。	入居者が自分らしく、より良く暮らすために、本人、家族から情報を収集し、日々支援している。入居者へのアセスメント、モニタリングを通じて職員の情報を共有し介護計画を立案し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は利用者の暮らしの様子や本人のその時の表情や言葉、エピソードなどを記録し、またケアの気づきなども具体的に介護計画実施記録へ記載し職員間の情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や民生委員の参加があり、周辺情報や情報交換など協力関係が築けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に駐在所の方や民生委員の参加があり、周辺情報や情報交換など協力関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院や利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう通院介助を行っている。また、必要に応じては訪問診療に来て頂いたりと複数の医療機関と連携を図っている。	ホームでは協力医の訪問診療や、入居者が希望する医療機関の受診を支援している。本人及び家族の意向に沿った受診対応を行っている。家族が受診時の送迎や同行が困難な場合は職員が付き添い、医師の診断や助言を把握し、家族に電話で伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、看護職員が居ない時間はケア記録や引継ぎなどで確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院が必要になった場合には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しまた入院中の状況など家族とも情報交換しながら職員も見舞うようにしている。回復状況により医師や家族との連携を図りながら速やかな退院支援が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する支援は家族の意向を聞きホームが対応できるケアについて家族や主治医と状態に変化があるごとに繰り返し話し合い家族や本人の希望や思いを配慮しながら方針の統一が出来るように支援している。	ホームでの看取り支援は行っていない。重度化や終末期に対する支援は、本人や家族の希望や意向を踏まえ、主治医の指示を受けて、可能な限り本人らしくホームで暮らすことができるよう支援している。本人の状態が悪化したり急変した際には協力医に相談し、適切な対応方法について支持を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年はコロナ感染拡大防止にて講習会の開催予定はないが、毎年消防署が主催する救命講習会に参加し普通救命講習Ⅰを終了し救急手当てや蘇生術の実技講習を受けている。講習で知り得た知識や技術は他の職員にも伝達・指導し共有出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に1回消防署の立会いのもと避難訓練を行い避難経路や通報の仕方などの訓練を行い、地域住民の方に参加してもらい利用者と一緒に避難訓練や誘導方法などの指導を受けていたが、コロナ感染拡大防止にて消防の立ち合いが出来なくなり、電話で訓練内容等を報告しています。また、設備点検は定期的に専門の業者の点検を受けています。	年1回、消防署立ち合いの下、「初動対応事項一覧表」に基づき火災や風水害時における避難誘導・初期消火などの訓練を全職員が昼夜を問わず対応できるよう訓練している。また、運営推進会議において防災マップを提示し、一時避難場所の周知を行い、地域住民との連携にも取り組んでいる。	備蓄食については入居者及び職員分を合わせて3日分以上を目途に充実させることに期待する。備蓄品一覧表で備蓄品を無駄なく運用し計画的に管理できるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居の際に入居者の個人情報の取り扱いやホーム便り等への写真掲載についての同意を得ている。また、プライバシーに配慮した言葉掛けや心掛けを行い自尊心を傷つけないように支援している。	入居者に対する言葉使いは方言も使用するが、一人ひとりの人格を尊重し敬う言葉かけに努めている。入居者へのプライバシーにも配慮し、写真を掲載したホームだよりを配布する前に、入居者の家族に説明し同意を得て配布するなど、丁寧に対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者の希望、関心、表情の変化を見極め利用者に合わせた声かけを行い複数の選択肢を提案し利用者が自分で決める場面作りに心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にその人らしい生活が送れるように出来るだけ個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられるように見守りを行い不十分なところや乱れはさりげなく支援している。自己決定しにくい利用者には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて旬の野菜など自家栽培している農作物を使い一人一人に合わせた食事形態で調理を行っている。入居者が出来る事を活かすことが出来るように職員が見守りや声かけを行いながら支援している。コロナ感染拡大防止の為、現在食事中は黙食を心がけています。	食材は旬の野菜や果物を使用し、季節感を味わえるよう献立を工夫している。食事形態は入居者一人一人に合わせ、きざみやミキサー食を提供している。近隣に自家栽培の野菜畑があり、採れたてで新鮮な食材を食卓に並べ入居者に喜ばれている。入居者がおやつのお饅頭を作ったり、野菜の皮むきや洗った皿拭きなど本人の残存能力を活かしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や栄養面を考え体調と1日の摂取量を把握している。水分量もおおよその摂取量が把握できるように職員が意識しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて毎食後の口腔ケアを見守りや介助を行い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方については紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討しトイレで排泄が出来るように一人一人に合った排泄方法(ポータブルトイレや共同トイレ)で支援しオムツ使用の方へは時間おきにオムツ交換や陰部清拭を行い、排泄チェック表を活用し排尿間隔等を把握しトイレ誘導や声かけを行っています。	夜間はオムツ、日中はリハビリパンツを使用し過ごす中で、職員は毎日「排泄チェック表」を記し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。排泄パターンに応じてトイレへ誘導し、排泄の失敗を未然に防ぐことに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩や適度な運動が出来るよう日々の活動の中で体を動かす機会を作り自然な排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	エアコンで室温の調節を行い、快適な入浴が出来るように配慮している。重度の方も入浴を楽しむことが出来るように機会浴を導入し安全に湯船に浸かることが出来ている。入浴の時間帯や順番・お湯の温度についても入居者の希望を汲み取りながら支援している。	入浴は週3回以上、一人ひとり安全に行えるようストレッチャー式の寝台機械浴にて支援している。午前・午後を問わず入浴ができるよう取り組んでいる。湯の温度についても、入居者の好みに応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の個別の疲れ具合に応じて個別に休息できるように支援している。また、生活リズムを整える為、日中の活動を促し安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの情報ファイルを作成し職員が内容を把握できるように支援している。服薬時には職員が介助し確実に服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけその力を発揮してもらえるように出来ることは依頼し、感謝の気持ちを伝えながら出来る範囲の拡大を図り活力を引き出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の体調や希望に応じて、苑庭散歩や季節を肌で感じてもらう為にドライブ等に出かけ気分転換やストレス発散が出来るように支援しているがコロナ感染防止の為、現在外出は控えている。	入居者はホームの庭で散歩したり、駐車場にあるみかんの木に生るみかんの実を職員と一緒に採るなど、本人の希望や要望に応じた気分転換や活動を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より少額のお金を預かり、事務所にて管理し買い物などの際に自分で払っていただけるようにお金を渡したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的にいつでも電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関先にミカンの木がありその収穫を皆さん心待ちにされたり、共用空間が居心地の良い場所になるように食材を刻む音や茶碗を洗う音など生活感を大切にしています。	ホールは窓が広く解放感があり、外光を多く取り込んでいる。廊下には天窓があり、明るい光が差し込んでいる。共用部の壁面には入居者と職員で作った季節の壁画やぬり絵を飾り、入居者が四季を感じながら過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を置き一人で過ごしたり、気の合う利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた目覚まし時計や孫の手、棚など馴染みの物を持ち込まれ居心地の良い部屋作りを心掛けている。	入居者の希望に応じて、部屋の広さやトイレまでの距離を検討して提供している。また、職員は入居者本人及び家族と相談しながら使い慣れた布団や位牌の持ち込みのほか飼っている犬を連れて入居する方にも居心地よく過ごせるよう対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能を考慮し家具の配置や活動性を維持する為に車椅子などを取り入れ利用者の状態に応じ自立した生活が送れるように支援している。		